

# 顔

「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の甲信ユニットセンター長に就任した山梨大大学院教授

山縣 然太朗さん



やまと・ぜんたろうさん 山口県生まれ、山梨医大卒。公衆衛生学、疫学、ゲノム医学が専門。中央市在住。52歳。

## 子供の健全な成長後押し

アトピー性皮膚炎や学習障害（LD）など、子どもの心

追跡調査していく。

化学物質は無数に存在する身の異常は近年、増加傾向にあるといわれる。これらの異常と、日常生活を取り巻く化

が、「子どもの健康にどんな影響を与えるのかは、ほどんど明らかになっていない」と指摘。「10万人を調査することで正確なデータが得られ、化学的根拠を打ち出すことができる」と調査の意義を語る。

る妊婦を募る。

調査の成功の鍵を握るのは

「地域の理解と協力」。妊婦などの家族、行政、医療機関などと共通認識を持ち連携す

るに重きを置いている。

「研究は住民に始まり住民に終わる」がモットー。「長期にわたる調査になるが、地

域の皆さんに協力してもらったりした「エコチル調査」。全国10万人の妊婦を対象に子どもが13歳になるまで、健

康状態や生活习惯などを追跡調査していく。吉田など5市で妊婦4488人を対象にする計画で、来年1月から調査に協力してくれ

る。甲州市内で22年にわたり実施した母子への調査では、妊婦の飲酒と子どものうつとの関係を明らかにした。無尽が心身の健康に役立つという高齢者を対象にした調査の結果も発表していて、研究は「人に重きを置いている。

が、環境省が本年度からスタートした「エコチル調査」は、甲信ユニットセンター長に就任した山梨大大学院教授山縣然太朗さんによると、甲府市や富士市など5市で妊婦4488人を対象にする計画で、来年1月から調査に協力してくれることで初めて、子どもたちの未来に役立つ結果が得られると考える。このため、フォーラムを開いて現状報告をし

たり、参加する家族にニーズレターを配布するなど、積極的な情報発信していく。甲州市内で22年にわたり実施した母子への調査では、妊婦の飲酒と子どものうつとの関係を明らかにした。無尽が心身の健康に役立つという高齢者を対象にした調査の結果も発表していて、研究は「人に重きを置いている。

「研究は住民に始まり住民に終わる」がモットー。「長期にわたる調査になるが、地域の皆さんに協力してもらいたい、子どもたちが健やかに育つ基盤をつくっていきたい」と語った。

（窪田 あづみ）